

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 スポーツウエルネス学学位プログラム【博士後期課程】

※本プログラムは、令和元年度以前の「人間総合科学研究科スポーツウエルネス学学位プログラム(3年生博士課程)」に相当します。
過去の修了状況については、当該プログラムの情報を用いています。
Webサイト <https://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>

特色

本学位プログラムは、社会人を対象としてスポーツウエルネス領域に係る国内外の重要課題解決のために、博士レベルの高度な専門知識を保有した上で、イノベーションが必要な難度の高い課題解決を推進できるマネジメント能力を併せ持つ高度専門職業人を養成することを目的としています。

近年、スポーツウエルネス領域で国際的な活躍をする人々が注目される一方で、多くの課題も見受けられます。例えば、日本の地域あるいは企業等でさまざまな関連施策が成果につながらない要因の一つは、このようなスポーツウエルネス領域におけるより高度な専門性とマネジメント能力を併せ持つ人材が不足していることにあると考えられます。

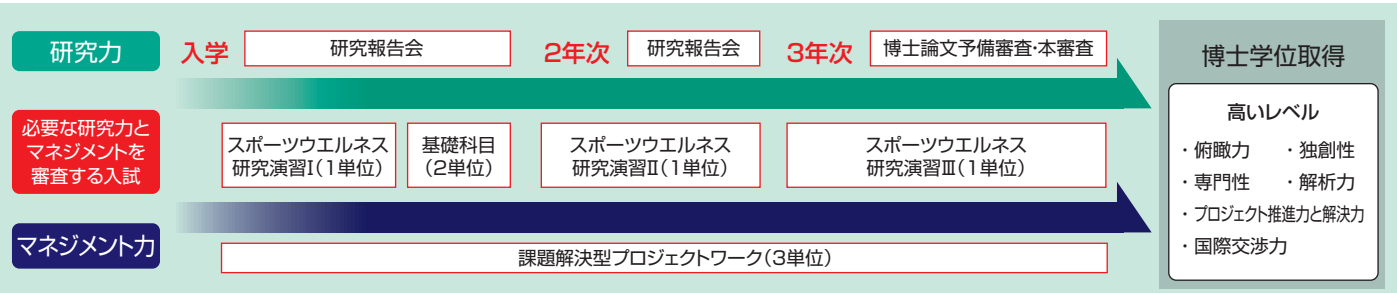
そこで、本学位プログラムは、日本と世界の未来のために、スポーツウエルネス領域に必要な人材、すなわち、スポーツウエルネスにかかわる諸課題を包括的、組織的に解決する課題解決力およびマネジメント能力を修得した高度専門職業人を育成するという使命を担うために新たに平成28年4月に設立されました。

本学位プログラムを修了し、力をつけた人材が国内外の産学官のさまざまな責任ある立場でリーダーシップを発揮し、周りの高度専門職業人と連携し、イノベーションを起こしていくことが期待されます。

教育方法

- (1)課程を通して修得すべき知識・能力
高度な研究力とマネジメント力を併せ持った高度専門職業人の育成のために、基礎科目、演習のほかに、課題解決型プロジェクトワークを導入し、プロジェクト推進力と解決力を養います。
- (2)指導体制
1人の学生に対して3名のアドバイザーグループを設置し、複数指導体制を整えます。
- (3)学位授与のプロセス
各学年で定期的に開催する研究報告会にて、次の段階に進めるか否かの合否判定を行います。この合否には、単位の取得、学会発表や研究誌投稿などの達成すべき課題も含めます。これにより、学位授与までのプロセスを明確化にすることで、段階的な研究指導を実現します。

<コースワーク>



(4)学位授与の方針

筑波大学大学院学則に規定された、博士課程の修了に必要な要件を満たした上で、スポーツウエルネス領域において、以下に示す能力を有することが最終試験によって認定された者に学位(博士(スポーツウエルネス学))を授与します。

- ①高度な課題解決力の向上を支える研究力とマネジメント力
- ②俯瞰的な視野と柔軟な思考力
- ③様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力
- ④最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力

応募状況

令和3年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
3	5	3	3

令和4年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
3	4	3	3

令和5年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
3	5	4	4

修了状況

スポーツウエルネス学学位プログラム		
令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	1	2

人間総合科学研究科
(博士後期課程)

スポーツウエルネス学学位プログラム

教育課程シラバスは

(URL: <https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)

または、学位プログラム Web サイト

(URL: <http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>) から

ダウンロードできます。

令和5年度学年暦カレンダー【東京キャンパス標準暦】

大学院関係:東京キャンパス

春 学 期										秋 学 期									
曜日 月	日	月	火	水	木	金	土		備考	曜日 月	日	月	火	水	木	金	土		備考
4月							1		春季休業4.1-4.10 入学式4.8、新入生オリエンテーション4.8 春学期授業開始4.11	10月	1	2	3	4	5	6	7		開学記念日10.1(開学50周年記念イベント開催予定) 秋学期授業開始10.3
	2	3	4	5	6	7	8	8			9	10	11	12	13	14			
	9	10	11	12	13	14	15	15			16	17	18	19	20	21			
	16	17	18	19	20	21	22	22			23	24	25	26	27	28			
	23	24	25	26	27	28	29	29			30	31							
	30																		
5月		1	2	3	4	5	6			11月				1	2	3	4		11.11臨時休業(入学試験実施)
	7	8	9	10	11	12	13	5			6	7	8	9	10	11			
	14	15	16	17	18	19	20	12			13	14	15	16	17	18			
	21	22	23	24	25	26	27	19			20	21	22	23	24	25			
	28	29	30	31				26			27	28	29	30					
6月					1	2	3			12月						1	2		冬季休業12.24-1.5
	4	5	6	7	8	9	10	3			4	5	6	7	8	9			
	11	12	13	14	15	16	17	10			11	12	13	14	15	16			
	18	19	20	21	22	23	24	17			18	19	20	21	22	23			
	25	26	27	28	29	30		24			25	26	27	28	29	30			
								31											
7月							1		春学期授業終了7.29	1月		1	2	3	4	5	6		
	2	3	4	5	6	7	8	7			8	9	10	11	12	13			
	9	10	11	12	13	14	15	14			15	16	17	18	19	20			
	16	17	18	19	20	21	22	21			22	23	24	25	26	27			
	23	24	25	26	27	28	29	28			29	30	31						
	30	31																	
8月			1	2	3	4	5		春ABCモジュール期末試験7.25、8.2-8.5 予備日8.1、8.9-8.10 夏季休業8.11-9.30	2月					1	2	3		秋学期授業終了2.2 秋ABCモジュール期末試験1.30-1.31、2.3、2.8-2.9 予備日2.6-2.7 春季休業2.10-3.31
	6	7	8	9	10	11	12	4			5	6	7	8	9	10			
	13	14	15	16	17	18	19	11			12	13	14	15	16	17			
	20	21	22	23	24	25	26	18			19	20	21	22	23	24			
	27	28	29	30	31			25			26	27	28	29					
9月						1	2		開学50周年記念式典9.30	3月						1	2		法科大学院修了日3.15 大学院学位記授与式3.30
	3	4	5	6	7	8	9	3			4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16	10			11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23	17			18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30	24			25	26	27	28	29	30			
								31											
授業 日数			(15)	(15)	(15)	(15)	(15)			授業 日数			(15)	(15)	(15)	(15)	(15)		

(注)

1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。
2. 期末試験日は  で示し、試験予備日を  で示す。
3. 休業日は  で示す。
4. 入学式・新入生オリエンテーション・学位記授与式は  で示す。
5. 11月11日(土)は入学試験関係で全日臨時休業とする予定。

※ 各学期は、A,B,Cの3つのモジュールに分かれます。

	Aモジュール
	Bモジュール
	Cモジュール

基礎科目 (必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTS011	課題解決型データ分析論特講1	1	1.0	1	春BC	応談		岡田 幸彦	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになることを目標に、社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。	開講日：6/24、7/1 (予定) 受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL001と同一。 対面
OBTS012	課題解決型データ分析論特講2	1	1.0	1	秋AB	応談		岡田 幸彦	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。	開講日：10/28、11/4 (予定) 受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL002と同一。 対面

専門科目 (必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTS111	スポーツウエルネス研究演習I	2	1.0	1	通年	随時		尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンター教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。中間報告会IIに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL101と同一。 対面
OBTS112	スポーツウエルネス研究演習II	2	1.0	2	通年	随時		尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。中間報告会IIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で1回以上の発表を行う(海外での調査研究に代えることができる)。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL102と同一。 対面
OBTS113	スポーツウエルネス研究演習III	2	1.0	3	通年	随時		尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 清水 和弘, 和久 貴洋	博士論文合格できる取りまとめ力を身につけるスポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で口頭発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL103と同一。 対面
OBTS114	課題解決型プロジェクトワークI	3	1.0	1	通年	随時		尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 安藤 梢, 田邊 解, 和久 貴洋, 清水 和弘, 渡部 厚一	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、課題解決型プロジェクトワークを実施する上で、理解すべき重要な研究方法であるアクションリサーチ法についての理解を深めるとともに、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)を行う。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL105と同一 4/12(水)、5/10(水)、7/12(水)の7、8限に全員での授業を実施、その他はゼミごとの開講になります。 対面
OBTS115	課題解決型プロジェクトワークII	3	2.0	2・3	通年	随時		尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 安藤 梢, 田邊 解, 和久 貴洋, 清水 和弘, 渡部 厚一	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL106と同一 対面

履修方法・修了要件

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
スポーツウエルネス学学位プログラム(博士後期課程)

科目区分	条件	科目名等	修得単位数
基礎科目	必修	課題解決型データ分析特講1	1
		課題解決型データ分析特講2	1
専門科目	必修	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ	1
		スポーツウエルネス研究演習Ⅱ	1
		スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	1
	必修	課題解決型プロジェクトワークⅠ	1
		課題解決型プロジェクトワークⅡ	2
修了単位数			8

(修了要件)

3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程早期修了者等)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

(注)教育上有益と認められる場合には、本学位プログラムの定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認める。

履修方法の詳細

1. 修了に必要な単位は、以下のとおりである。

(1) 基礎科目（必修）

- ・課題解決型データ分析論特講 1
- ・課題解決型データ分析論特講 2 以上 2 科目（2 単位）

(2) 専門科目（必修）

- ・スポーツウエルネス研究演習 I
- ・スポーツウエルネス研究演習 II
- ・スポーツウエルネス研究演習 III
- ・課題解決型プロジェクトワーク I
- ・課題解決型プロジェクトワーク II 以上 5 科目（6 単位）

2. 修了要件は、原則として、

- ・指定された必修科目の 8 単位以上の取得
 - ・博士論文の審査及び最終試験に合格すること
- ※研究論文誌で筆頭論文 1 編以上を持つことが望ましい

本学位プログラムに 3 年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士（スポーツウエルネス学）」の学位が授与される。